

「仙台市立病院経営計画（令和 7 年度～令和 9 年度）」進捗状況

課題Ⅰ 医療提供体制の充実・強化

取り組み方針 1 高度急性期及び急性期医療の提供体制の強化

戦略 1-(1) 高度急性期・急性期医療機能の維持

【具体的な取り組み】

- ① 急性期一般入院料 1 の維持
- ② 特定集中治療室管理料 2 の維持
- ③ 救命救急入院料 1 の維持
- ④ 急性期充実体制加算の維持・確保
- ⑤ DPC 特定病院群への移行に向けた取り組み推進

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・重症患者や術後患者等の集中管理に対応するため、ICU 及び HCU 病棟における医師の 24 時間配置体制の維持に努めている。
- ・急性期充実体制加算の要件に係る手術等の実績値について、毎月の経営委員会や、手術センター運営委員会で報告し、安定的な実績確保に努めている。
- ・重症度、医療・看護必要度について、創傷処置や酸素吸入などの実施入力漏れ調査を行い、適正な必要度の測定に努めた。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月あたり	実績	1 月あたり
①	重症度、医療・看護必要度 基準① (A 得点 3 点以上又は C 得点 1 点以上)	%	27.0	—	26.5	—
	重症度、医療・看護必要度 基準② (A 得点 2 点以上又は C 得点 1 点以上)	%	35.0	—	34.2	—
	夜勤人員数の確保（平均人員）	人	405	—	410	—
②	特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度	%	80.0	—	93.9	—
③	救命救急入院料 1 の維持		<目標値を設定していない取り組み>			
④	全身麻酔手術のうち緊急手術件数 (1 月あたり)	件	36	—	39	—
⑤	DPC 特定病院群への移行に向けた取り組み推進		<目標値を設定していない取り組み>			

※目標「1 月あたり」の値は、小数点第一位以下を切り上げとしている。（以下の表も同様）

※実績は、当月までの累計又は平均値としている。（以下の表も同様）

※実績「1 月あたり」の値は、小数点第一位以下を切り上げとしている。（以下の表も同様）

戦略 1-(2) 手術需要に応じた手術センター機能の更なる強化

【具体的な取り組み】

- ① 手術室の効率的な運用
- ② 高度な医療技術の実践
- ③ 手術室の体制整備の検討（手術室増設など）
- ④ 緊急手術の円滑な実施体制の確保
- ⑤ 手術室看護師の勤務体制の検討と人材確保

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・ロボット手術については、令和6年度に開始した泌尿器科領域の前立腺手術、膀胱手術、外科領域の直腸手術、膵臓手術、肝臓手術、婦人科領域の子宮手術に加え、今年度は、新たに腎臓手術も開始した。
- ・手術需要の増加に対応するため、これまで緊急手術用として確保していた手術室の1室を常時稼働させることを目的に、救急外来に緊急手術用の手術室の整備を行っている。
- ・ロボット手術については、泌尿器科領域で7月に尿管手術、11月に副腎手術を新たに開始した。また、外科領域では8月に結腸手術を開始した。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月あたり	実績	1月あたり
①	手術件数	件	5,597	467	4,211	468
	術前外来件数	件	800	67	991	111
②	ロボット手術件数	件	190	16	169	19
③	手術室の体制整備の検討(手術室増設など)		<目標値を設定していない取り組み>			
④	緊急手術の円滑な実施体制の確保		<目標値を設定していない取り組み>			
⑤	手術室人員定数	人	34	—	35	—
	手術需要に合わせた最適な勤務体制整備		検討	—	検討中	—

戦略1-(3) 「地域がん診療連携拠点病院」を見据えたがん診療提供体制の構築

【具体的な取り組み】

- ① がんに対する各治療法の充実（手術、薬物療法、放射線治療）
- ② がん診療提供体制の強化
- ③ がん診療支援の推進

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・3名の職員が、国立がんセンター主催の「がん相談支援センター相談員基礎研修(1)及び(2)」を受講した。また、宮城県が主催するがん相談支援連絡会に参加し、がん患者への支援体制の充実に向けた計画的な人材育成に努めた。
- ・県内のがん診療を担う一般病院とがん診療連携拠点病院との連携体制を構築し、がん診療の質向上と均てん化を図ることを目的とした県独自の「宮城県がん診療連携推進病院」の指定を受けた。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月あたり	実績	1月あたり
①	入院化学療法件数（延べ件数）	件	1,800	150	1,004	112
	外来化学療法件数（延べ件数）	件	4,400	367	3,797	422
	放射線治療新規患者数	人	280	24	189	21
	悪性腫瘍手術件数	件	1,230	103	955	107
	がん患者指導管理件数 （医師及び看護師の共同によるもの）	件	65	6	47	6
	栄養指導のうち、がん患者への入院栄養指導件数	件	350	30	333	37

①	栄養指導のうち、がん患者への外来栄養指導件数	件	30	3	20	3
	外来腫瘍化学療法診療料におけるがん薬物療法体制充実加算	件	70	6	75	9
	外来腫瘍化学療法診療料における連携充実加算	件	850	71	709	79
	腫瘍内科紹介件数	件	65	6	10	2
②	がん診療提供体制の強化		<目標値を設定していない取り組み>			
③	がん診療支援相談員数（延べ数）	人	1	—	3	—
	がん相談実務者会議参加回数	回	2	—	1	—
	緩和ケアチーム介入数	件	94	8	69	8

戦略 1-(4) 診療科の特性、疾患構成等を考慮した効果的な病床活用の推進

【具体的な取り組み】

① 一般病床の診療科再編の検討

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・病棟看護師の業務の平準化及び病床稼働率の向上を図るため、6 西病棟、7 東病棟、9 東病棟において、各診療科の特性や疾患構成、前年度の病床稼働率・回転率等の実績をふまえ、受入れ疾患の運用変更を行った。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月あたり	実績	1 月あたり
①	一般病床の診療科再編の検討		<目標値を設定していない取り組み>			

取り組み方針 2 政策的医療の着実な遂行

戦略 2-(1) 救命救急センター機能の強化

【具体的な取り組み】

- ① 救急患者の受入れ体制の強化
- ② 多くの重症患者を受入れるための連携強化

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・救急を含む入院患者の増加を図るため、入院に伴う書類等の業務を簡素化した「短期入院セット」を作成し、運用を開始した。
- ・救命救急センターの精神疾患診断・治療体制の充実のため、新たに夜間休日に精神科の当番医のオンコール体制を整備し、精神科診療の充実を図った。
- ・救急患者の受入れベッドを確保するため、「仙台市救急医療病院間連携推進事業」をより一層活用しながら、救急患者の円滑な転院に努めている。
- ・7 月に救命救急センター運営委員会に「紹介患者受入れ推進 WG」を設置し、現在の救急患者受入れ体制の課題把握を行うとともに、更なる救急患者の受入れに向けた医師への啓発を実施した。
- ・ICU 病棟の有効活用のため、術後患者の利用を促進し、集中治療体制の充実を図った。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	救急車搬送患者受入数	人	8,400	700	6,023	670
	病院・開業医からの紹介患者の救急での応 需率	%	85.0	—	86.0	—
	救命コール受入数	人	730	61	437	49
	小児救急対応患者数	人	3,200	267	2,204	245
	救命救急センター精神疾患診断治療初回対 応件数	件	170	15	163	19
	ICU 病床稼働率	%	65.6	—	57.8	—
	HCU 病床稼働率	%	86.0	—	84.9	—
②	救急患者連携搬送料算定件数	件	84	7	28	4
	仙台市救急医療病院間連携推進事業利用件 数	件	120	10	125	14

戦略 2 - (2) 身体合併症精神医療体制の充実

【具体的な取り組み】

① 院内の各診療科や各種関係機関との連携強化による受入れ体制の推進

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・精神病棟の多床室をより活用するため、新たにベッドモニターを導入した。
- ・診療科で適切なせん妄初期対応を可能にするため、不眠時・不穏時指示を精神科医師が新たに作成した。併せて、精神科医師等が初期研修医や看護スタッフ等に院内勉強会を実施し、せん妄初期対応の統一化を図った。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	精神病床稼働率	%	42.0	—	41.1	—
	精神科コンサルテーション・リエゾン診療 対応実件数	件	1,000	84	996	111
	精神病床受入れ会議実施件数	件	90	8	70	8
	m-ECT（電気けいれん療法）実施実患者数	人	5	—	12	—
	せん妄に対する介入方法の検討		検討	—	検討中	—

戦略2-(3) 地域周産期母子医療センターとしての機能維持

【具体的な取り組み】

- ① 安全・安心な周産期医療の提供
- ② 選ばれる分娩施設となるための取り組み

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・妊娠・出産に関する不安に寄り添い、妊婦が安心して分べんに臨めるよう、日本看護協会の「院内助産・助産師外来ガイドライン」をふまえた助産師外来を6月2日より開設した。
- ・出産を望む女性にとって不安やストレスとなる分べん中の痛みを軽減し、より快適な分べんを提供するため、「産婦人科診療ガイドライン産科編」をふまえた麻酔分べんを7月1日より開始した。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月あたり	実績	1月あたり
①	分娩件数	件	1,000	84	658	74
	ハイリスク分娩件数	件	500	42	402	45
	セミオープンシステム妊娠受診件数	件	900	75	627	70
	出生体重2,500g未満の新生児受入数	人	100	9	52	6
	助産師数	人	62	—	62	—
	アドバンス助産師数	人	18	—	16	—
②	麻酔分娩（和痛分娩）対応件数	件	30	3	10	2
	助産師外来対応数	件	300	25	252	28

戦略2-(4) 災害拠点病院としての不測の事態への備え

【具体的な取り組み】

- ①災害対応訓練の実施

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・9月の災害対応基礎研修に加え、10月には本庁各局(危機管理局・健康福祉局・消防局)、仙台オープン病院、長町病院、山形市立病院済生館、市立秋田総合病院との合同で災害対応実動訓練を実施した。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月あたり	実績	1月あたり
①	災害対応訓練延べ参加者数	人	270	—	302	—

戦略2-(5) 新興感染症等に備えた平時からの取り組み

【具体的な取り組み】

① 感染症患者受入れ訓練の実施

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・11月に、仙台空港検疫所の同席のもと、本市保健所と合同で感染症患者搬送訓練を実施し、感染症発生時における関係機関との連携強化に努めた。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	感染症患者搬送訓練数	回	1	—	1	—

取り組み方針3 地域包括ケアシステムの充実

戦略3-(1) 前方連携強化に向けた計画的・戦略的なアプローチ

【具体的な取り組み】

① 地域医療機関へ訪問活動の実施

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・更なる病診連携の促進を図るため、5月28日に「地域連携のつどい」、10月8日に産婦人科による小規模懇話会を開催したほか、登録医への訪問活動や広報誌の発送を行った。
- ・開業医からの診察依頼の電話を、直接、医師へつなぐ体制を整備し、診療依頼対応の迅速化を図った。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	紹介患者数	人	21,109	1,760	15,946	1,772
	逆紹介患者数	人	17,983	1,499	12,918	1,436
	登録医訪問回数	回	120	10	82	10

戦略3-(2) 急性期治療後の切れ目のない医療提供体制の構築

【具体的な取り組み】

- ① 後方支援病院との更なる連携推進
- ② 多くの重症患者を受入れるための連携強化（再掲）
- ③ 積極的な広報活動の実施

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・7月29日に「仙台南地域医療連携を考える会」、8月28日に「仙台市立病院オープンカンファレンス」を開催し、地域医療機関との意見交換を行いながら連携強化に努めた。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	保険医療機関との面会回数	回	270	23	277	31
②	多くの重症患者を受入れるための連携強化（再掲）		<目標値を設定していない取り組み>			
③	地域関係機関とのネットワーク会議の開催回数	回	4	—	2	—

取り組み方針4 安全・安心で質の高い医療提供の充実

戦略4-(1) 患者中心の質の高い医療サービスの提供

【具体的な取り組み】

- ① 病院機能評価の認定維持
- ② クリニカルインディケーターの活用促進
- ③ 専門性を活かしたチーム医療の実践
- ④ 身体拘束最小化の推進

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・病院機能評価の認定3年目に実施される「認定期間中の確認」において、4月に自己評価や改善活動などを公益財団法人日本医療機能評価機構に報告した。
- ・薬剤師の増員及び病棟担当薬剤師のシフトの見直しにより、服薬指導などの病棟薬剤業務の充実を図った。
- ・慢性腎臓病患者の中で、特に透析リスクが高い患者の透析予防を行うため、医師や看護師、管理栄養士の多職種共同で指導にあたる体制を4月から開始した。
- ・5月に「身体拘束最小化のための指針」を策定し、職員に周知したことに加え、セーフティープラスによる全職員対象の研修を実施し、必要最小限の適正な身体拘束の実施に努めている。
- ・病院機能評価の「認定期間中の確認」に対して、公益財団法人日本医療機能評価機構からフィードバックされた課題の改善に向けた取り組みを進めた。
- ・各診療科の医師に、院内で使用している整腸剤の後発医薬品への切り替えの提案を行い、後発医薬品の使用促進を図った。
- ・転倒・転落時の重症化を防ぐため、緩衝マットの活用を促進した。また、緩衝マット使用後も転倒転落件数が減少しない病棟には、センサー一体型の緩衝マットを設置した。
- ・ICU 入室患者の早期回復を図るため、早期経腸栄養の有効性について医師・看護師へ情報共有を行った。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月あたり	実績	1月あたり
①	病院機能評価の認定維持		準備	—	準備	—
②	クリニカルインディケーターの活用促進		<目標値を設定していない取り組み>			
③	遠隔モニタリング管理患者数	人	480	40	480	54
	心臓ペースメーカー指導管理件数	件	2,500	209	1,910	213
	検体検査件数	件	3,450,384	287,532	2,658,596	295,400
	生理検査件数	件	38,289	3,191	28,250	3,139
	輸血実施単位数	単位	20,580	1,715	13,797	1,533
	薬剤総合評価調整加算	件	40	4	22	3
	退院時薬剤情報連携加算	件	80	7	77	9
	薬剤管理指導件数	件	14,400	1,200	10,879	1,209
	退院時薬剤情報管理指導件数	件	2,040	170	1,484	165
	後発医薬品使用割合	%	90.7	—	93.0	—

③	リハビリスタッフ1日あたりの算定単位数(室長除く)	単位	18.6	—	18.2	—
	脳梗塞入院後3日以内の介入率	%	91.0	—	96.2	—
	栄養サポートチームと連携した誤嚥性肺炎患者への介入件数	件	50	5	30	4
	CT 件数	件	24,600	2,050	18,429	2,048
	MRI 件数	件	7,550	630	5,646	628
	高エネルギー放射線治療件数	件	6,500	542	4,328	481
	シンチグラム・SPECT 件数	件	930	78	630	70
	入院栄養指導管理件数	件	1,200	100	1,046	117
	外来栄養指導管理件数	件	1,140	95	984	110
	栄養サポートチーム介入件数	件	420	35	359	40
	糖尿病透析予防指導件数	件	115	10	66	8
	早期栄養介入管理加算算定件数	件	1,790	150	1,632	182
	慢性腎臓病透析予防指導料算定件数	件	40	4	202	23
④	身体拘束率（10 階病棟を除く）	%	12.8	—	9.2	—
	転倒転落発生率	‰	1.62	—	1.71	—
	ドレーン類インシデント件数	件	410	—	297	—
	3b 以上の転倒転落インシデント発生件数	件	3 以下	—	1	—
	3b 以上のドレーン自己抜去インシデント発生件数	件	0	—	0	—
	身体拘束最小化に関する研修会	回	1	—	1	—

戦略4-(2) 患者満足度の向上と患者サービスの充実

【具体的な取り組み】

- ① 入院・外来患者満足度の向上に向けた取り組み推進
- ② 入院前から退院までの包括的な支援の強化
- ③ 病院紹介など情報発信の充実
- ④ 患者需要に応じた外来診察室再編の検討
- ⑤ 外来患者待ち時間短縮の推進
- ⑥ 職員の接遇向上

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・外来診療を行ううえで、必要な情報共有と課題解決に向けて「外来連絡会」を設置し、患者サービスの向上を図るため、多職種で意見交換を行った。
- ・看護部等を対象に、接遇に関するオンライン研修及び外部講師による集合研修を実施し、接遇力向上に努めた。
- ・退院支援が必要な患者への早期かつ確実な介入を行うため、他医療機関の取り組みを参考に、支援の対象疾患拡大による体制強化に向けた計画立案に着手した。
- ・患者の個人情報保護のため、受付番号による患者呼び出しの範囲を拡大した。
- ・患者の待ち時間によるストレス軽減のため、診察室案内表示システムの活用徹底について院内周知を行った。また、外来診療従事者に対し、待ち時間目安表示機能や呼出順序目安表示機能などの主要機能について改めて説明を行い、運用改善に努めた。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	患者満足度調査における総合評価 (5 点満点)〈外来〉	点	4.6	－	集計中	－
	患者満足度調査における総合評価 (5 点満点)〈入院〉	点	4.7	－	集計中	－
	外来打ち合わせ会議の実施		検討	－	3 回 開催	－
②	入退院支援加算件数	件	3,130	261	2,363	263
③	市民公開講座等の配信件数	件	2	－	0	－
④	患者需要に応じた外来診察室再編の検討		＜目標値を設定していない取り組み＞			
⑤	患者満足度調査「待ち時間(受付から診察 開始まで)」の平均評価 (5 点満点)	点	3.5	－	集計中	－
	患者満足度調査「待ち時間(診察終了から 会計まで)」の平均評価 (5 点満点)	点	3.8	－	集計中	－
⑥	接遇研修実施回数	回	1	－	1	－
	接遇トレーナー育成人数	人	1	－	23	－

戦略 4 - (3) 職員の医療安全への意識向上と安全な医療提供

【具体的な取り組み】

① 医療安全対策の強化

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・ インシデント報告を促すため、多くのレポートを報告した部署や未然に防ぐことができた「Good Job 事例」に関する表彰を行うなど、啓発活動に努めている。
- ・ 医療安全報告、安全管理ニュースの毎月発行に加え、職員からのインシデント報告の中で特に注意喚起が必要な事例に関しては臨時号を発行するなど、職員の医療安全への意識向上を図っている。
- ・ 研修医に対し、インシデント報告の意義・目的やインシデント管理システムのレポートの入力方法について研修を実施した。
- ・ 全職員を対象に「カスタマーハラスメントへの対策・対応」や「身体拘束最小化のための研修」を実施した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	インシデント報告件数 (年間)	件	2,350	－	1,906	－
	医療安全管理研修会 (全職員対象必須研修)	回	2	－	2	－
	医療安全報告発行回数	回	12	1	9	1
	安全管理ニュース発行回数	回	18	2	16	2
	患者参加型の患者確認実施率 (外来)	%	97.5	－	集計中	－
	患者参加型の患者確認実施率 (入院)	%	98.0	－	集計中	－

課題Ⅱ 安定した病院経営基盤の確立

取り組み方針1 収益の確保

戦略1-(1) 医業収益の拡大、医業未収金の抑制等に向けた各種取り組みの推進

【具体的な取り組み】

- ①医療機能強化による患者数の確保
- ②ベッドコントロール強化による病床稼働率の確保
- ③医業未収金の抑制に向けた取り組み推進
- ④手数料等の適正化
- ⑤診療報酬改定への適切な対応
- ⑥外部アドバイザーの活用

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・救急車搬送患者や地域の医療機関からの紹介患者の積極的な受入れに加え、診療科毎に設定した目標患者数の達成状況によっては、適宜管理者・院長等によるヒアリングを実施し、改善策を検討するなど、患者数確保に努めている。
- ・救急を含む入院患者の増加を図るため、入院に伴う書類等の業務を簡素化した「短期入院セット」を作成し、運用を開始した。（課題Ⅰ戦略2-(1)再掲）
- ・入院患者確保に向け、多職種で空床や入院状況を共有する「経営会議」を毎週火曜日に行っている。
- ・週末の救急患者受入れ強化のため空床状況の周知と患者確保の呼びかけの院内掲示を行っている。
- ・手術支援ロボットで実施する「腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除」「腹腔鏡下腔式子宮全摘術」「腹腔鏡下肝切除術」「腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術」に加え、新たに「腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術」「腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術」の施設基準について届け出を行った。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月あたり	実績	1月あたり
①	外来患者数（1日平均）	人	925	—	981	—
	入院患者数（1日平均）	人	410	—	403	—
②	病床稼働率（全病床）	%	78.1	—	76.7	—
③	収納率	%	99.2	—	99.2※	—
④	手数料等の適正化		<目標値を設定していない取り組み>			
⑤	診療報酬改定の対応		管理・準備	—	管理・準備	—
⑥	外部アドバイザーの活用		<目標値を設定していない取り組み>			

※令和7年4月～11月の実績

取り組み方針 2 費用の抑制

戦略 2-(1) 材料費(診療材料費、薬品費)、経費(委託料)等の更なる縮減

【具体的な取り組み】

- ①材料費(診療材料費、薬品費)の縮減に向けた取り組み強化
- ②委託内容や委託費用の見直し

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・診療材料費、医薬品費の更なる縮減に向けて、4 月から共同購入事業の運用を開始した。
- ・7 月に診療材料の見本市を開催し、23 品目を共同購入製品へ切り替え、診療材料費の縮減に努めた。
- ・医薬品ごとのベンチマークを活用した値引き率目標を設定し、目標に達していない品目については、医師及び薬剤師同席のもと医薬品卸業者と価格交渉を行った。
- ・委託契約の内容等の分析、並びに委託料の削減が可能な項目の抽出を行うコンサルティング業務の委託契約を締結し、そのフィードバックを基に、委託内容の見直し等による費用縮減についての検討を行っている。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月あたり	実績	1 月あたり
①	診療材料費対医業収益比率	%	11.3	—	13.7	—
	薬品費対医業収益比率	%	15.4	—	19.3	—
②	委託費用対医業収益比率	%	—	—	—	—

戦略 2-(2) 光熱水費使用料の抑制

【具体的な取り組み】

- ①照明設備の LED 化推進

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・照明設備の LED 化に向けて、現場調査及び院内調整等を進め、年度末の工事設計の完成に向けて取り組んでいる。

【目標と実績】

具体的な取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月あたり	実績	1 月あたり
①	購入電力量の削減率(1 日あたり)	%	0.0	—	0.0	—

取り組み方針 3 人材の確保

戦略 3-(1) 医療機能の充実や適正な収益確保のための人材確保

【具体的な取り組み】

- ①医療需要の変化に対応した人材の確保
- ②関連大学医局との連携による医師の確保
- ③病院紹介などの広報活動の実施

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・令和 8 年度の看護職員採用に向けた、4 月の看護師向け病院見学・説明会の開催に加え、7 月には企業主催の合同説明会にも参加し、人材確保のための広報を行った。
- ・看護学生向けに、院内での病院説明会とインターンシップを実施した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	医療需要の変化に対応した人材の確保		<目標値を設定していない取り組み>			
②	関連大学医局との連携による医師の確保		<目標値を設定していない取り組み>			
③	看護師の合同説明会（企業、学校主催も含む）	回	6	－	5	－
	インターンシップ開催回数（看護部）	回	1	－	2	－
	既卒者対象の病院見学会（看護部）	回	1	－	0	－

戦略 3-(2) 職員の経営意識向上

【具体的な取り組み】

①経営参画意識を高める働きかけの実施

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・新規採用職員を対象に当院の経営状況等に関する説明会を開催し、職員の経営意識の醸成を図った。
- ・年末に、全職員を対象とした、管理者・院長による当院の経営状況及び経営改善に向けた具体的な取組み方針を示す説明会を開催した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	病院経営に関する院内研修会	回	3	－	3	－

取り組み方針 4 医療 DX の推進

戦略 4-(1) 経営効率化に向けた DX 推進

【具体的な取り組み】

- ①国が進める医療 DX への適切な対応
- ②情報セキュリティ対策の強化
- ③DX による業務効率化とサービス向上の検討

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・国において、全国の医療機関等で患者の電子カルテ情報の共有が可能となる「電子カルテ情報共有サービス」の年度内稼働を目指した開発が行われているため、システムベンダーとの定例会で進捗状況を確認している。今後は国の動向に応じて対応を行っていく。
- ・「情報セキュリティインシデント対応計画(2023 年度～2025 年度)」の対応について精査し、国のガイドラインやサイバーセキュリティの動向、他施設の状況をふまえた次期計画の策定に取り組んでいる。
- ・医療文書生成 AI、ファイルメーカー、救急初療記録システム等、患者サービス及び医療の質向上、業務効率化に資する各種 ICT ソリューションの導入に向けた情報収集、院内職員向けの提案、費用試算等を行った。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	国が進める医療 DX への適切な対応		<目標値を設定していない取り組み>			
②	情報セキュリティ対策の強化		<目標値を設定していない取り組み>			
③	導入検討ソリューションの案件数	件	2	—	8	—

取り組み方針 5 施設・設備の適正管理

戦略 5 - (1) 医療技術の進歩に的確に対応する施設、設備の整備

【具体的な取り組み】

- ①医療機器更新計画の推進及び必要に応じた新規医療機器の導入
- ②医療情報システム更新計画の策定
- ③施設改修や手術室増設に向けた検討

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・医療機器更新の優先順位や、臨時で購入する場合の評価基準及び手順を明確にするため、新たな方針を整備中である。承認後、新方針に基づいた定期的な更新計画の見直し及び必要に応じた新規医療機器の整備を行っていく。
- ・今後予定されている医療情報システム更新のため、年度内の基本計画策定に向けた方針を検討している。
- ・医療機器整備更新の優先順位や、臨時購入の必要性についての基準を見直し、令和 8・9 年度に整備が必要な機器等についての部署ヒアリングを行った。また、令和 7 年度に整備が認められた機器については、欠品しているものを除き整備を完了した。
- ・施設整備事業の現状の課題や当院の経営面等を踏まえ、中長期的な方向性を整理したうえで、適切な施設改修に向けた整備計画の策定に着手した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	医療機器更新計画の推進及び必要に応じた新規医療機器の導入		<目標値を設定していない取り組み>			
②	医療情報システム更新計画の策定		<目標値を設定していない取り組み>			
③	施設改修に向けた対応		現状把握 計画策定	—	現状把握 計画策定	—

課題Ⅲ 職員の確保及び育成の充実

取り組み方針 1 ワークライフバランスの充実

戦略 1-(1) 働き方改革に対応した勤務環境の整備

【具体的な取り組み】

- ①看護師の新たな勤務体制に向けた検討
- ②職員の時間外労働の縮減を図る取り組みの推進
- ③医師のチーム制の導入促進
- ④タスクシフト・タスクシェアの推進（診療看護師(NP)等の人材育成など）
- ⑤職員が働き続けたいと思う勤務環境の整備
- ⑥業務見直しによる業務効率化の推進
- ⑦定年延長制度に伴う働き方の検討

【令和 7 年度 主な取り組み状況】

- ・3名の看護師が皮膚・排泄ケア認定看護師の受験を予定している。引き続き、認定看護師の養成に向けて必要な派遣研修を行い、人材育成の推進を図っていく。
- ・術前説明や化学療法におけるオリエンテーション動画を新たに作成し、看護師による患者説明業務の効率化を図った。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R 7 年度		R 7 年 4 月～12 月	
			目標	1 月 あたり	実績	1 月 あたり
①	新たな勤務体制の導入		試行 評価	－	検討中	－
	職員満足度調査（看護部）「仙台市立病院でこれからも働き続けたいと思う。」（10点満点）	点	6.5	－	集計中	－
②	時間外労働 100 時間超の医師数（月平均）	人	7	－	3	－
	時間外労働 45 時間超(医師以外)職員数（月平均）	人	20	－	17	－
③	医師のチーム制の導入促進		<目標値を設定していない取り組み>			
④	看護師特定行為研修修了者数	人	1	－	1	－
⑤	職員満足度調査「仙台市立病院でこれからも働き続けたいと思う。」（10点満点）	点	7.0	－	集計中	－
⑥	業務見直しによる業務効率化の推進		<目標値を設定していない取り組み>			
⑦	定年延長制度に伴う働き方の検討		<目標値を設定していない取り組み>			

戦略1-(2) 働きやすい職場環境の整備

【具体的な取り組み】

- ①職員が働き続けたいと思う勤務環境の整備（再掲）
- ②各種ハラスメント対策における防止対策研修の実施
- ③休暇取得の推進

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・年次有給休暇取得目標を職員に周知するとともに、各所属長へ所属職員の休暇取得実績を共有し、取得勧奨の働きかけを行い、休暇取得の促進に努めている。
- ・7月には、外部講師を招いて「カスタマーハラスメントへの対策・対応～組織的な対応のために～」というテーマで全職員を対象とした集合研修を行い、未受講者に対しては、セーフティープラスで同内容の研修を実施した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	職員が働き続けたいと思う勤務環境の整備（再掲）		<目標値を設定していない取り組み>			
②	各種ハラスメント対策における防止対策研修実施回数	回	1	—	1	—
③	年次有給休暇の平均取得日数	日	12.5	—	—	—

取り組み方針2 働きがいの向上

戦略2-(1) 人材育成の充実

【具体的な取り組み】

- ①研修受講や資格取得に向けた支援の充実
- ②ICTを活用した院内教育体制の推進
- ③海外先進医療機関との相互交流

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・2年目研修医1名が宮城県医師育成機構主催の短期海外研修に参加した。
- ・「身体拘束最小化のための研修」や「院内接遇研修」など全職員を対象としたWEB研修を実施した。
- ・10月にアメリカ合衆国のニューメキシコ大学の医師を招聘し、研修教育を実施することで、指導体制の充実を図った。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	研修受講や資格取得支援件数	件	100	—	114	—
②	ICTを活用した研修実施回数	回	5	—	8	—
③	海外先進医療機関への派遣人数	人	4	—	4	—
	招聘研修実施日数	日	5	—	5	—

戦略2-(2) 臨床研修病院としての体制等の充実

【具体的な取り組み】

①研修プログラムの充実

②研修医確保に向けた広報活動

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・企業合同説明会では、研修医の参加により、医学生が現場の声を聴くことのできる工夫をするなど、研修医確保に向けた広報活動に努めた。
- ・令和7年度目標人数の臨床研修医を採用した。令和8年度の募集についても開始した。
- ・研修医確保に向け、Facebook、ホームページにて情報を発信した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	臨床研修医採用人数	人	17	—	17	—
②	情報発信回数	回	20	2	7	1

戦略2-(3) 専攻医の育成環境の充実

【具体的な取り組み】

①専攻医の研修プログラムの充実

【令和7年度 主な取り組み状況】

- ・内科専攻研修及び救急科研修のプログラムにおける連携施設を増やすなど、令和8年度からの専攻医プログラムの充実を図った。
- ・令和7年11月より当院専攻医プログラムの募集を開始し、現在、当院の内科専門研修プログラムに1名内定した。

【目標と実績】

具体的な 取り組み	項目	単位	R7年度		R7年4月～12月	
			目標	1月 あたり	実績	1月 あたり
①	当院専攻医プログラム採用人数	人	7	—	1	—